

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-8 (電話) 0144-57-5008		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月24日

【情報提供票より】 (20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 5月 27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円
			10～4月 6,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要 (6月20日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	8名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.3歳	最低	73歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧日翔病院・吉田内科・道南訪問看護ステーション・なか歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

苫小牧市内の新興住宅街にあって、残された自然と共存できる環境下にあり、大規模な公園を目の当たりにできる立地に恵まれたホームです。広々とした公園内を散策する利用者にとって地域の子供達との大切な触れ合いの場でもあります。日常においても利用者のペースを大切に、1階、2階のユニット間の自由な行き来による交流が盛んに行なわれ、和やかな雰囲気になっています。ホーム内では利用者の話し声が絶えず聞こえるなど、明るい雰囲気は家族の方々にも多くの好評を得ています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の作業は今回が初めてであり、自己評価で得た気づきや改善項目に対する積極的な姿勢が見えます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者などによって作成された自己評価を、ミーティングで、改善に向けて話し合われていますが、作成には管理者と主任が係わり全職員による自己評価への取り組みとはなっていません。今後は全職員が参加する、言わばボトムアップの体系での対応を望みます
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	これまで3回の会議がもたれていますが、会議の内容にマンネリ化が見えます。固定化されたメンバー構成ではなく、柔軟な人選、例えば地域住民、婦人部の皆さん、商店の方々など、利用者にとって日常触れ合うことの多い方々への参加要請も必要です。また、災害時への対応など幅広い話題の協議と定期的開催への取り組みを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の様子や活動は写真で報告されていますが、会報の内容充実、一人ひとりの家族宛のおたよりなど、家族への対応の取り組みを期待します。また、家族との会話による要望や苦情の収集に努めていますが、「ご意見箱」または「気づきの声」など工夫により、より多くの声をいただくような取り組みを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	買物や散歩などで、地域住民との挨拶などの交流は増す傾向にありますが、利用者の地域に根ざした豊かな暮らしの創造のため、町内会事業への積極的な参加やホーム事業への招聘など積極的な取り組みを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念には、利用者の社会参加と地域社会との共生が謳われ、その人らしく地域で暮らせる理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝、夕の申し送りや週1回のミーティングなどに、職員は理念の共有に加えて実践に向けた取り組みの確認をしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買物や散歩で、ご近所の住民と挨拶や会話をするなど、地域との交流は少しずつ増加の傾向にありますが、町内会事業などへの積極的な参加には至っていません。	○	地域で暮らす住民であるとの意識を持ちつつ、町内会行事などに進んで参加するなど、地元の方々と相互交流を図れる取り組みを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、主に管理者とユニット主任により作成されており、全ての職員が日頃の気づきを持ち寄るなど集約したものとなっていません。	○	全職員が自己評価に参加するとともに、外部評価での課題も、サービスの質の向上に役立たせるため積極的な対応と取り組みを期待します。

苫小牧市 グループホーム ほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、これまで3回開催されホームの報告事項や今後の事業計画などが話し合われていますが、会議の内容にマンネリ化がみられます。	○	サービスの質の向上に向けた具体的な取り組みを、「改善計画シート」などの利用により報告し意見を徴する方策、また、定期的な開催や委員の構成も柔軟かつ拡大を図るなど、会議の活性化への取り組みを望みます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口とは、保険業務などで行き来はあるものの、サービスの質の向上に向けた連携には至っていません。	○	自己評価及び外部評価への取り組み報告を始め、ホームの当面する課題など市の担当者との話し合いの機会を多く試み、行政とともにサービスの質の向上に向けた取り組みを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付にあわせて利用者暮らしぶりなどを写真とともに掲載していますが、「会報」としての内容の充実が不足しており、利用者一人ひとりの状況報告には至っていません。	○	請求書とは別に、内容が充実した「会報」の作成を期待します。また、利用者一人ひとりの暮らしぶりを記した担当職員の「おたより」も作成し家族の方々へ送付するなど、きめ細やかな報告への取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々からの意見や要望、苦情は、ホームの改善のために重要であるとの認識は深く、訪問時の機会を捉えて気軽に話し合える関係作りが出来ています。意見箱の活用についても改めて検討することとしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はあるものの、退職による職員の異動は比較的少なく、異動の際にはある程度の馴染みの関係が出来てから行なうなど、影響がでない工夫がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会からの研修情報を得ながら、受講による職員のスキルアップに努めています。ホーム内でも研修後の報告会を兼ねた勉強会を行なってサービスの質の向上に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のほかの業者と企画する研修会などにはできるだけ参加をしているほか、特定のグループホームとの交流はあるものの、職員を含めたネットワークによる相互交流には至っていません。	○	グループホーム間の勉強会、相互訪問、ネットワーク作りによる情報交換など、サービスの質の向上に向けた取り組みを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、以前住まわれていた自宅訪問や病院訪問をして利用者のこれまでの状況を把握することとしています。また、日帰りの体験などしていただき馴染める関係作りが行なわれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事、特に調理など利用者との共同作業が多く取り入れられており、職員とともに楽しみながら支えあう関係作りが行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1の話し合いを大切にして、興味のある事には、どんな細かなことでも良く聞きながら、思いや意向を把握するように心掛けています。意思の疎通に支障をきたした時は、家族に相談しながら、思いや意向の把握に努められています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週のミーティングや担当者とケアマネジャーを中心としたカンファレンスの中で、利用者、家族の意見を取り入れた介護計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回見直しの検討があり、新たな介護計画が作られています。利用者の状況変化によっては、医療機関との打ち合わせにより、3ヵ月に係わらず必要かつ柔軟な見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の安心の暮らしのため、以前の住居訪問や、銭湯への付き添い、個別の買物、また、家族に代わっての病院受診の送迎、外出支援など、ホームの有する多機能により柔軟な対応と支援がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問医による受診のほか、利用者一人ひとりのかかりつけ医の指示を得て、看護職員が訪問看護ステーションと連携をしながら支援が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に看取り介護について説明があり、看取り指針および重度化対応の指針が整備されおり、家族、職員とも方針が共有されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、自然でさりげない対応が日常적으로おこなわれているなど、職員のプライバシーを尊重した姿勢が見られますが、「会報」やホーム内の写真掲載などには事前の同意が必要と思われます。	○	利用者のプライバシーをより確保するため細心の注意が必要で、事前に写真掲載などへの同意書を備えるよう望みます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心がけ、一人ひとりのペースでゆったりとした暮らしの支援がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部食材を使うメニューになっていますが、週に1度ないし2度は利用者と話し合いながら、献立を決めて作り方を教わるなどしながら、下拵えや後かたづけが職員と一緒にこなされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によっては毎日の入浴も可能となっています。体調をみながら、シャワー浴や足浴も取り入れ入浴による楽しみを支援していますが、時には職員の都合で入浴日が決められることもあります。また、夜間の入浴は現在行なわれていません。	○	職員間のシフト改善などで、夜間入浴を含めた、利用者一人ひとりの希望に添う入浴支援への取り組みを期待します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの自主性が尊重されており、暮らしの中で役割を持ちながら張り合いのある営みが続けられています。生活歴を踏まえた家事、習字、塗り絵、貼り絵、畑、草取りなど楽しく誘い合える支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見て散歩は毎日行うようにしており、利用者の希望によりドライブ、買物などの同行支援が行なわれています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ、防犯のため施錠しています。日中は玄関に鈴がとりつけられるなど見守りに配慮がされています。1～2階のユニット間は、常に開放され利用者の行き来が自由に行なわれています。		

苫小牧市 グループホーム ほたる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災に対するマニュアルは完備されており、年1回の消防訓練は行なわれていますが、救急救命の一層のスキルアップと夜間想定避難訓練、また、地域住民の方々との協力体制が少し不足しています。	○	救急救命の定期的な講習の実施、また夜間を想定した訓練など、地域住民の方々の協力を得た対応と取り組みに期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供企業の栄養士と連携して栄養のバランスに配慮しています。、水分摂取、食べる量はチェック表に記録され、一人ひとりに合わせた支援がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良いリビングで、利用者はくつろいだひと時を過ごしています。廊下には一人で、また仲間で過ごせるコーナーも作られて団らんが見られます。食堂、浴室やトイレも広く居心地の良い空間が随所に見られます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの生活用品が持ち込まれて、利用者にとって安心の暮らしができる空間となっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。